

# 短歌

特集 古今集復興

昭和二十八年十一月一日 国鉄東局特別扱承認雑誌第七〇五号  
 昭和二十九年二月二十三日 第三種郵便物認可  
 昭和四十七年三月一日 発行 (毎月一回一日発行)

はろん白紙

第十四卷 第三号 角川書店

## 高血圧・動脈硬化

漢方の良さをためして下さい

本薬は石南・赤松葉など十種を含有し、動脈硬化・高血圧諸症(中気、脳溢血、首スジ肩コリ、耳鳴り、目マイ、頭重、手足シビレ、舌モツレ、不眠症、動悸息切れ、ノボセ)の治療予防剤として作られた近代漢方薬です。永く続けて服用しても差支えなく、総合的に働き、血圧を下げ、動脈を軟らげ、腎臓病・心臓病に於て便通利尿の効果を示します。本薬のご服用により快便・快眠・快食の毎日をご期待下さい。

百貨店・薬局でお求め下さい  
 おハガキ次第詳細説明書呈



石川 しょうせき なん せいじょう  
**石松石南の精錠**



半月七五〇円・一月一、三〇〇円

東京都中野区千代田39の9 TEL代(383) 3662 松石南本舗

¥ 160

IBM 5 9 1 9

夕暮れは雲のはたてにものぞ思ふ天つ空  
なる人を恋ふとて

よみ人しらず

「恋歌一」にあるが、わたしはこの歌を古今集の歌としてよりも、むしろ、萩原朔太郎の『恋愛名歌集』のなかの引用歌として記憶していた。というのは「天つ空なる人」についての朔太郎の解釈がおもしろく、わたしにも同感されたからであった。

朔太郎は「古今集恋歌中の庄巻である」とこの歌を賞讃した鑑賞文の最後で、次のように述べている。

「古い歌人の中には、この『天つ空なる人』を天上人の意に解し、平民が身分ちがひの貴族に恋する片思ひの歌として、一首の意を解説して居る人がある。こんな悪趣向的の俗解をしたら、折角の名歌も型なしに成つてしまふ。詩を理解しない似而非歌人の註釈ほど、詩を傷つけるものはないのだ。」

こう論ずる朔太郎の解釈は「夕暮の空の彼方、遠く暮れかかる穹窿の地平の上に、旗のような夕焼雲がたなびいて居る。悲しい落日の沈むところ、遠い山脈や幻想の都会を越えて、自分の懐かしい懐かしい恋人は住んで居るのだ……」と、いかにも朔太郎らしい。

## 中 桐 雅 夫

(詩人)

ところがふつうはやはり「遠くにいる人」「思いの届かない人」のほかに「かけ離れて及びがたい身分の高い人」を暗示しているともみられる。わたしの持っている参考書にそうなっている。その解釈によると「夕暮れになると、はるかな雲の果てをながめながら、物思いをすることだ。空の果てに居る人でもあるような、すげないあの人を恋するというので」となっている。朔太郎とくらべては、くらべられる方が気の毒であるけれども、やはり朔太郎に軍配をあげたくなる。もっとも、もう一箇所くい違いがある。朔太郎は「はたて」を旗手と解し、旗のように乱れる形と注しているが、後者は果手ととり、雲のはて、と説明している。そして朔太郎の解説では、雲のはて、の感じも出しているから、実際には両義を含めたものといえ、この点からも、朔太郎の鑑賞をとった方がいいと思われる。

朔太郎の短歌、俳句の解釈には独断的なものもあるといわれるが、この場合など、わたしは彼の説に賛成するものだ。

## 古今集の歌一首

駿河なる田子の浦波立たぬ日はあれども

君を恋ひぬ日はなし

よみ人しらず

古今集の歌一首について書けといはれたとき、わたしはちよつと当惑した。少年のころ父の文庫の中に八代集があるのを見て、ひらひ読みしたおぼえはあるが、まもなく正岡子規の短歌写生の説かに、古今集をつまらぬ歌集だといつてあるのを見て、読まなくなつたから、一首もそらでおぼえてあるのがなくなつた。もつとも百人一首にとられてゐるのだつたら、古今集でなく、歌ガルタとしておぼえてゐるにはちがひない。しかし、ちがつた意味の当惑は万葉だつて、新古今だつて、あるひは茂吉だつて、一首と指定されれば同じやうに感じたことであらう。なんにしても手もとに古今集のないのに気がついて、わたしは書く資格がないと思つた。

ただ「閑吟集」をひらひよみしてあると、「田子のうら浪うらのなみ、たぬ日はあれど、日はあれど」といふ一首があつて、これは古今集恋一の

駿河なる田子の浦波立たぬ日はあれども君を恋

ひぬ日はなし

の下二句を省略した形だと知つて、この歌はいいと思つた。作者は

誰か、しらべてもゐないが、平安期の人ならば、駿河の田子の浦は遠い国である。実見したかいなか作者を知らねばいへないが、この僻遠の歌枕を用ひたところに作者のロマンチックな根性が見えてゐるし、われわれの知るとほり田子の浦といはず太平洋岸で波の立たぬ日はないといふのに、ドイツ語なら大過去形を使はねばならない仮定をして、「恋ひぬ日はなし」と強くいひ切つてゐるところが大変うれしい。恋の歌としては上乘で、田子の浦を歌ふ赤人の写生の歌よりずつと人を動かすではないか。

ここまで書いて、念のため古今集を見に図書館へ行つてみると(悲しいことだが、岩波文庫の古本さへ三百円の売値がついてゐるのである)、案の如くこの歌は「よみ人しらず」である。古今集と銘うつからには業平か小町の歌でも引けばよかつたと思ふがあとの祭りである。

わたしは年老いて物覚えがわるく、「恋ひぬ日はなし」などいふ恋はしたことがないと思つてゐる。もしそれに当たるとしたら戦争末期に二等兵として北シナで宮城遙拝について、「家族に挨拶」した時の思ひがそれであらう。その時もこんな歌は作らなかつたと思ふ。

## 田 中 克 己

(詩人・成城大学教授)

# 新刊案内

67-3

## ■文庫

夜の鶴 芝木好子

告白 丹羽文雄

ジャン・クリストフ (全8冊) — 第6巻 — ロマン・ロラン / 村上菊一郎訳

新生 ダンテ / 三浦逸雄訳

ド・ゴール G. ボヌール / 宗 左近訳

S F 宇宙戦争 H. G. ウェルズ / 中村能三訳

## ■新書

ナイル河の文化 小堀 巖

禪の文化 古田紹欽

## ■全集

世界の詩集 (全12巻) — 第3巻 ハイネ詩集 —

日本古典評釈・全注釈叢書 — 徒然草全注釈(上) —

近代文学鑑賞講座 (全25巻) — 第10巻 志賀直哉 —

源氏物語評釈 (全12巻・別巻2) — 第8巻 柏木・横笛・鈴虫・夕霧 —

中河與一全集 (全12巻) — 第3巻 短篇小説集 —

窪田空穂全集 (全28巻) — 第24巻 新古今和歌集評釈Ⅲ —

## 後記

・貫之は下手な歌よみにて古今集はくだらぬ集に有之候——正岡子規が「再び歌よみに与ふる書」の冒頭に言い切ったから七十年。彼の樹てた価値評価は、ついにくつがえることなく今におよんでいるようにみえます。しかし、子規に至るまで一千年の間、この国の歌の、いや美の規範はむしろ古今集的なものであったのではないでしょう。彼の宣言も、今は歴史のなかで把えな

ければならないと同時に、古今・新古今を虚心に味読し、歴史を超えた文学の糧とするのにやぶさかであってはなりません。すべての呪縛から脱却いたしましょう。  
・角川短歌賞の締切り迫る。  
・なお、角川書店では、新人のみならず、短歌・俳句界の最高の業績を称揚し、振興をめざす大賞の設立を企て、近く小誌誌上にその詳細を発表いたしますことになっております。  
(隆一)

## 募集規定

- \*住所氏名を明記してください。
- \*かならず短歌と朱書してください。
- \*読者短歌(応募の乗参照)用紙はハガキ。縦書きとし一人五首以内にながります。
- \*読者短評(一家一言)五〇〇字内外、原稿用紙にお書きねがいます。掲載分には稿料をお送りします。
- \*その他、原稿の御返送には応じられませんから、必ず写しを取ってからお送りください。

## 広告案内

- (1) 表紙二、三、四は書籍雑誌以外のものをお願いしております。有楽通信社に一任してあります。
- (2) 目次、袖は書籍雑誌広告をお願いしております。有楽通信社 東京都千代田区四番町一〇 (電話) (三三三) 四四四一、九 雑誌部 山口 修宛
- (3) △有楽通信社 東京都千代田区四番町一〇 (電話) (三三三) 四四四一、九 雑誌部 山口 修宛 △電通 東京都中央区銀座西七ノ一 (電話) (三三三) 八一二一 (代) 出版連絡局田中榮三宛 △ご連絡次第、参上またはご返事申し上げます。本文記事中は小社宣伝部で取り扱っております。料金表ご希望の向きはお申し越し下さい。

## 雑誌合 短歌

三月号 特価 一六〇円

昭和四十二年 二月二十八日印刷  
昭和四十二年 三月 一日発行

編集兼発行人 角川源義  
印刷人 中内佐光  
印刷所 暁印刷株式会社  
東京千代田区富士見一ノ二ノ三  
発行所 角川書店  
振替 東京 一九五二〇八番  
電話 東京 (265) 代表七一一番

## 定価

一冊 一五〇円 十二円  
一カ年 二〇〇〇円 (年鑑共)

## お願い

・小社の出版物はなるべくよりの書店にてお求め下さい。やむをえない場合にかぎり、営業部通信販売係へ。  
・ご注文は前金に願います。前金が尽きました際は雑誌の封皮に「前金切」の三字を朱書しますから至急ご送金下さい。  
・ご送金は振替が最も便利です。  
・郵券代用は必ず一割増に願います。  
・外国よりのご注文は郵税を申し受けます。  
・特別号にて前金に不足を生じる時は不足金を頂きます。あらかじめご承知下さい。